

令和3年度第6回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和3年12月1日（水）18：00～19：40

【場 所】 浜益支所3F旧議場

【資 料】

- 1) 会議次第
- 2) 第8期浜益区地域協議会の総括

【出席者】 10名（13名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
会長	渡邊 隆之	○	委員	渡邊 真奈美	○	委員	水崎 理	○
副会長	佐藤 晃一	○	委員	阿部 ゆかり	○	委員	徳田 和之	
委員	岡本 俊介		委員	木村 美幸	○	委員	柿岡 奈々絵	○
委員	久慈 貞子		委員	徳地 克実	○			
委員	鳴海 翔	○	委員	赤間 香子	○			

- （支 所） 畠中支所長、開発市民福祉課長（併 浜益生涯学習課長）
 宇野市民福祉課保健福祉担当課長（兼 はまます保育園長、浜益国保診療所庶務課長）
 小島保健師、瀧コーディネーター
- （本 庁） 企画経済部企画課 中西次長
 教育委員会生涯学習部 東課長
- （NPO法人エゾロック） 大久保亜姫（大学生）、田中千里（大学生）
- （事務局） 佐々木地域振興課長、柿崎主査、小貫主任

【傍聴者】 6名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - (1) 統合教育施設の検討状況について
 - (2) カフェ・クローバーの活動から見える高齢者に優しいまちづくりについて
- 4 協議事項
 - (1) 第8期浜益区地域協議会委員からの引継ぎ事項について
- 5 その他
- 6 次回の開催日程について
- 7 閉 会

1 開 会

【事務局】

本日は悪天候のなか、お集まり頂きありがとうございます。
只今より、令和3年度第6回浜益区地域協議会を開会いたします。

2 会長あいさつ

【渡邊会長】

みなさんお疲れ様です。

第9期の浜益区地域協議会といたしまして、10月18日に新たにスタートし、今回2回目の会議となります。

前回の会議は委嘱状の交付を受けて最初の会議ということもあり、また、日中の開催ということもありまして、都合のつかなかった方もいらっしゃると思います。また、議題も多く時間的にも余裕がなかったように感じております。

そのようなことから、今回は地域協議会本来の会議の場になると考えております。

今日の議題は「統合教育施設の検討状況について」と「カフェ・クローバーの活動から見える高齢者に優しいまちづくりについて」の2件の報告事項と、協議事項といたしまして、第8期浜益区地域協議会委員からの引継ぎ事項についてです。

この引継ぎ事項に関しまして、前回の会議資料でも示され、委員の皆様は既にお読みいただいていることとは思いますが、後ほど事務局から主な部分の説明がございます。

第8期協議会の総括をしっかりと踏まえながら、これからの浜益区の地域づくりの方向性や考え方、アイデア等をしっかりと引継ぎ、第9期地域協議会としての検討テーマ等を見定めながら、地域に暮らす方々が生きがいを持ち、安心・安全に、そして心豊かに暮らせることができるよう意見交換をしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

また、今日は浜益区内で活動をしている、エゾロックの皆さんも会議にご出席いただいております。

昨日の北海道新聞朝刊の地域話題欄に記事が掲載されておりましたので、ご承知の方もいらっしゃると思いますけれども、後ほど浜益版「集落の教科書」づくりに関する活動状況のご報告をいただくと聞いておりますので、楽しみにしたいと思います。

本日はどうぞよろしくお願い致します。

【事務局】

本日の会議は委員13名のうち10名が出席し、過半数に達し成立していることを報告します。
この後の進行は渡邊会長よりよろしくお願い致します。

3 報告事項

【渡邊会長】

本日は2点の報告事項を予定しております。

初めに「統合教育施設の検討状況について」教育委員会から報告をお願いします。

(1) 統合教育施設の検討状況について

【東課長】

今日は貴重なお時間をいただきまして、浜益区の学校整備についてご報告をさせていただきます。
スクリーンを見ながらのご説明とさせていただきます。

6月30日、地域協議会にお邪魔させていただき、その時に浜益区の教育環境整備ということで、この土地がどれくらい有効に使えるのかという調査を実施していることをご報告させていただきました。

本日はその概要と結果に基づく浜益区の教育環境の整備に関する市教育委員会としての考え方のご説明をさせていただきます。

皆さんご承知のとおり、浜益中学校は傾斜地に囲まれており、決して土地として余裕のある敷地面

積ではありません。また、学校敷地の西側は国道側の崖に隣接しているという状況で、どの位置をどの程度の広さで有効に活用できるのかという事を把握するため、測量調査を実施したところです。

その結果、北海道の建築基準法施行条例というものがあり、そこで定められている、崖地に建物を建築する場合の制限区域がピンク色の実線となっています。

通称「崖地条例」と呼ばれているこの基準ですが、崖の上部に建物を建てようとする場合、崖下の端から崖の高さの2倍離さなければならないこととなっています。

ただし、その制限区域内に建てたらすべてが危険という意味ではなく、その区域を外すとまずは安全性が担保できるという仕組みになっています。

また、中学校は傾斜地に囲まれた場所でありますので、武道場の方に建物を建てるとか、さらにその奥にも何かしようとした場合、工事車両や大型車両などが往来するスペースの確保についても十分に確保できるかというような課題も見えてきたところです。

これらを勘案しまして、可能な限り施設整備をするという考えを基に検討した結果、現時点での石狩市教育委員会の考え方としては、既存校舎の前に（図で指示）小学校と保育園を増築するのが最も適しているのではないかというのが、現在の考え方になります。

今、市で検討しているのは、小中学校の統合と保育園の整備ということになります。

私たちとしては、既存の浜益中学校を最大限に活用しながら、小学校と保育園を増築するというのが基本の考えとなっております。

増築する建物を平屋建てにするのか、2階建てにするのかによって必要な建築面積が変わってきます。スクールバスの往来や保護者の車の乗り入れ、また、前庭をできるだけ残して、児童・生徒が使えるようにという事を考えると、2階建てがいいのではと考えています。

青い四角（図で指示）は建物を建てた場合の規模感を示しています。ここに建てるという意味ではありませんので、誤解されないようお願いしたいのですが、前庭に600㎡ぐらいを見込んでいます。

これは小学校と保育園を並べて平屋建てで建てた場合の仮定です。そうすると前庭の部分にこれぐらいのスペースが必要になるという規模感を確認していただくために載せている絵なので、この場所に設置ということではありませんのでご了承ください。

加えて、前庭のどの位置に建てるかという事によっても、活用できるスペースや使い勝手のメリットデメリット、既存校舎との連結といった課題もありますので、保護者をはじめ学校関係者の皆様からも様々なご意見をいただきながら、今後具体化していきたいと考えております。

私からの説明は以上となります。

【渡邊会長】

ただいま「統合教育施設の検討状況について」説明がありました。委員の皆様から確認等ありますでしょうか？

【柿岡委員】

青い区画の敷地内は子供が何人ぐらいを想定し、どういった施設までを入れるのかという事まで検討されているのでしょうか？

【東課長】

人数については、今後数年かけて整備していく中で変わっていくとは思いますが、教室数としては今の小学校に必要な教室数3教室のほか、特別支援が必要なお子さんがいらっしゃる場合の教室、あとはトイレなどの共有施設と使い勝手の良いちょっとしたスペース、教室2つ分ぐらいが用意できればと考えておりますが、最低限、先ほど申し上げた教室4つ、トイレ、廊下、階段などの共有スペースは確保する必要があると考えております。

保育園については、厚田学園をご存知かと思うのですが、あちらの保育園のスペースが大体330㎡ぐらいの床面積ですので、これと同じぐらいのスペースが確保できれば十分なのではと考えております。

これも今後のお子さんのニーズ、人数ですとか推計を出しあわせていく形にはなるかと思いますが、今の段階での基本的な考え方はそういうことになります。

【柿岡委員】

既存中学校にある施設はそのまま使っていく、または、それも用途に合わせて改築していくというところはどのようにでしょうか？

【東課長】

まず、小学校は普通教室という事でご説明しましたが、ご承知のとおり、音楽室ですとか工作室、家庭科室など、いわゆる特別教室というものも必要になります。

検討に入るときに学校からも意見を聞いたところ、既に中学校の中にそういう特別教室があって、大きさですとか小学校の児童でも使えるかどうか確認をしたところ、それは無理ではないだろうという事ですので、特別教室については基本的には中学校にあるものを小学校の児童の皆さんにも使っていただく考えです。

ただ、黒板の位置が中学生用なので、高いなど、小学生の使い勝手の部分では多少の改修などは必要になってくると思いますので、そういったものは学校の先生方の意見も聞きながら必要な改修はしなければならぬと考えております。

【渡邊委員】

教育委員会としてはこの案を進めたいという感じですか？

【東課長】

今年の2月ぐらいから市役所の中でも小中学校・保育園を含めて、お子さんの居場所を集約できないかという検討が始まり、皆さんご承知のとおり、4月にワークショップを開催し、地域で多くの市民の方に参加いただきました。その中では厚田学園のようにみんな一緒が良いよねというご意見や親の見守りの部分で考えても、保育園にも小学校にもお子さんがいる方にとれば、同じ場所で二人のお子さんの状況を見られるというのが良いのではという意見もありました。

そういったものも含めて、教育委員会として保育園も含めて集約できればと考えております。

ただ、決定というのは私どもが今の段階でできるものではなく、教育委員から意見を聞かなければなりませんし、庁内の保育部署と最終的には調整をしなければ決定にはなりません。

今の段階で決定とは言えませんが、基本的には市の関連部局が集まって会議をしている中で、基本路線としては、保育園と小学校・中学校、この3つを一つの場所に集約するという事で検討している状況ですので、ご理解をいただきたいと思います。

【渡邊委員】

どうしても、グラウンドが離れるということがネックに思う。せめて前庭が残るならまだいいかなと思っていたのですが、結局使えないとなったらチャイムが鳴ってすぐ外に飛び出したいという子供達が、外で好きなように遊ぶスペースが無いというのは、どうなのかなという思いがあります。

個人の意見なので何とも言えないんですけど、もう一度住民の皆さんにも何かやれる考えがないか話し合いしてほしいと思います。

【東課長】

この学校統合の話中学校に相談した中では、前庭は非常に有効的に使っている場所なので、できるだけ残してほしいという要望をいただきました。

私たちも実際にお邪魔した時に、帰りのバスを待っている生徒さんがわずかな時間を利用して、ソフトボールをやっている姿をみて、何とか残せる方向で考えられないか、というのは私も当然思ったところでした。

ご覧いただいている図の中で青色の部分が、およそ600㎡です。

絵としてはグラウンドをほぼ潰してしまうように見えてしまうと思うのですが、あくまでこれは平屋建てで保育園と小学校を作ったという仮定です。

スペースの有効活用を考えれば、2階建てとしてこの半分にすることが現実的であろうと思っています。また、建てる位置によっては多少なりとも前庭を残せる、というところに検討の余地もあるのではと思っています。その他、既存物置小屋を移設することで広げられないかなど、しっかりと検討して、ちょっとした遊びやスポーツができる部分は確保したいというのは教育委員会としても基本的な考えではあります。

ただ、先ほども申し上げたとおり、新たな建物を建てるということになると、前庭を今のまま使うというのはどうしても難しい部分がありますので、ご理解いただければと思います。

【渡邊会長】

厚田学園の例もありますけれども、統合施設等につきましてはできるだけ早急な教育環境の整備を

目指しながら、保護者の意見を十分に聞いたうえで、子供たちのことを考えていただきながら建設にあたっていただきたいと思います。

次に「カフェ・クローバーの活動から見える高齢者に優しいまちづくり」について、説明をお願いします。

(2) カフェ・クローバーの活動から見える高齢者に優しいまちづくり

【宇野課長】

本日は、高齢者の生活を支える取り組みの一つ、カフェ・クローバーのお話をさせていただきたいと思います。

石狩市では高齢者が住み慣れた自宅や地域で元気に暮らせるまちづくりを目指しており、浜益区でもこれを具体化するために、色々な取り組みをしております。最近ホットな取り組みとして、カフェ・クローバーを開設したところです。

前段で浜益の高齢者の状況について、基礎的な情報提供を地域包括支援センターの小島保健師よりさせていただき、その後、生活支援コーディネーターの瀧さんからカフェ・クローバーの活動を報告させていただきます。

【小島保健師】

私からは浜益区の高齢者の状況について、そしてこれからの高齢者支援で大切にしていきたいと考えていることについて、お話しさせていただきます。

(概要)

- ・ 浜益区の人口と高齢化率の推移
 - 平成 25 年頃には 50% を超えその後も上昇を続けている。浜益では約 20 年前にはもうすでに後期高齢者が前期高齢者を上回るという状況になっていた。
 - 一人の高齢者を肩車のように支えているという構図。
- ・ 包括支援センターでは昨年浜益にお住いの高齢者に対して 2 つの調査を実施。
 - ① 介護サービス充足調査
 - 浜益で在宅生活をされている 85 歳以上の方、126 名から聞き取った。
 - 約 7 割の方が今後も浜益区内での暮らしを続けたい一方で、在宅を支える既存サービスの需要と供給にはギャップがあることや、暮らしの不安や買い物、交通など介護サービス以外の項目が浜益での在宅の継続に重要な要素であることがわかった。
 - ② 高齢者実態把握調査
 - 一人暮らしの方 46 名に普段の生活の様子や、外出、交流の状況を調査。
 - 約 7 割の方が何らかの趣味や楽しみにしていることがあると答えている。
 - 畑仕事や友人との交流、外出などの生活習慣が 85 歳を過ぎてもお元気で一人暮らしが継続できていること、介護予防につながっていることを再確認することができた。
- ・ 支えあいの地域づくりのために（まとめ）
 - ① 在宅サービスの充実
 - サービスの量と質を確保しながら、冬期間の生活不安や買い物、交通などの課題にも目を向ける必要がある。
 - ② 介護予防への取り組み
 - 楽しみにしていることや人との交流がある方は健康寿命が長いことがわかっている。
 - 介護予防事業や既存のサークルなどの集いの場、そして地域行事などにも参加することが介護予防の一つ。
 - ③ 支えあいの地域づくり
 - 昔からの付き合いや声かけ、見守りが自然に行われている土壌が浜益にはあることはとても大切なことであり、何より、自分自身のためにもなるということを日々の活動の中で意識して伝えていきたい。
 - 年をとったら世話になる、世話してもらおうという意識が根強くあったが、人生 80 年と

いう時代が過ぎて、若い人だけでは支えられなくなるという状況がやってきている。
これからは年齢では区切らず一人一人が大事な存在であり、社会資源の一つであるという認識を持たなければならない。

時には助けられ、時には役に立つ出番がある、浜益暮らしの中で自分の役割を見つけられるように包括支援センターはお手伝いをできたらと思っている。

【瀧コーディネーター】

カフェ・クローバーは現在柏木地区で活動を行っており、名前は四葉のクローバーからみんなが寄っている、集っているというイメージと幸せというイメージから名付けました。
今日は、カフェ・クローバーができるまでの経緯、目的とコンセプトについてご紹介します。

(概要)

・開設までの経緯

青空体操クラブや縁ジョイクラブ、生きがいづくり学園、リハビリ教室といった事業がありますが、その参加の中心となる年代は70代から80代までが多く、60代から70代前半の人達が、地域の中で活躍できる場を地域支援包括支援センターで作りたいというのが最初の発案。

その後、趣旨に賛同した方々の繋がりから輪が広がり令和2年6月にカフェという形で開店。

・目的

①浜益の健康寿命を延ばす場所にする。

②高齢者に限らず色々な人が集う場所にする、そして、支えられるだけでなく支える場にする。

・コンセプト

①「いつまでも元気」を応援する場

②「みんながのんびり」過ごせる場

③「楽しさいっぱい」の場

④「新たな出会い」の場

・開店状況及び様子

毎月1回第3木曜日のほかに不定期でイベント的な開催。

ハーバリウム教室やコーヒーフィルターを使ったエコ加湿器作成教室などを開催。

高齢者ふれあいサロン支援事業交付金を活用し利用料は200円。

開催時間は現在10時から16時まで。

これまで13回開催しコロナで6回中止、利用者数は延べ280名が来訪。

最近は毎回平均30名前後が利用。

最近は午前の常連として川下地区の女子会の方々や、一人でお茶を飲みに来る方もいる。

送迎をふくしの里が協力してくれることにより、遠方に住んでいる人も友人と会えるようになった。

男性の方が集って、野球の話や歴史の話など色々な話題で盛り上がっているという様子もある。

その他、若いママ友さん達も多く利用していただいて、子供たちの声も聞こえる。

今日行く場所があったり、誰かと会う用事があるということが、元気で長生きするために大切なのではないかなと感じている。

カフェ・クローバーは行きたいと思うような目的地であり続けたい。

・これからの取組

コロナの状況を見ながら当初の目的を達成したい。

開催の回数や場所、関わってくれる人をもっと増やしたい。

細々とした調整や準備など雑務の負担を軽減するための体制づくりが必要。例えば、地域おこし協力隊が業務として関わっていくことなども、活動の持続性につながると思っている。

【渡邊会長】

浜益区においては今後も益々高齢化が進展していくと思います。お話の中にありましたように支える側も高齢化している現状にあります。こういったことで年齢に関係なく、誰もが支える側になれる、誰かの役に立てる、そういういったことが私は感服いたしました。地域協議会委員の皆さんも気軽に積極的にカフェ・クローバーに参加していただき、世代を超えた交流を楽しみながら高齢者に優しいまちづくりを進めていければと思います。

4 協議事項

(1) 第8期浜益区地域協議会委員からの引継ぎ事項について

【事務局】

協議事項は第8期浜益区地域協議会総括という事でお手元に資料を配布しております。

前半は資料の説明、後半は事務局より今後のことも含めて提案をさせていただきたいと思います。

第8期協議会では2年間で合計13回の会議を開催し、概ね9項目について議論してきました。特に「地域振興等のアイディア」として「移住・定住の取り組み」に関して、元浜益中学校長の川村様のアドバイスや、エゾロックさんのご協力によるワークショップなども行いました。

その他、川下・柏木地区の新しい集会施設の検討や浜益区の教育環境の向上のための統合教育施設についてなど、情報共有も図ってきました。

地域づくりに関しては、「観光」的な側面だけに留まらず、漁業や農業、高齢化など幅広い地域課題に向き合うことが必要という意見があるほか、人口減少、高齢化、人手・人材不足の浜益では、小中学校、保育園、各種団体など多様な団体とのより一層の連携が不可欠、といった指摘がありました。

また、地域協議会委員として、会議で見聞きした話題は、それぞれの地域や団体に持ち帰ってそれぞれの活動に活かして欲しい、さらに、地域協議会は様々な意見を言い合える場であって、自分の立場イコール自分ごととして捉え、会議に臨みたいとの意見もありました。

このようなことから、第8期の振り返りを踏まえ、地域協議会委員の一人一人が様々な機会を通じて区内の声を受け止め、会議の場で活発に議論していくことが大切、活発に議論していきましょう、とさせていただいております。

「第9期の引継ぎ事項」として6点掲げています。

この中で、特に2点目の「地域おこし協力隊の継続的な導入」と「新たに集落支援員の導入」については、先日の協議会で同意を頂いたうえで、現在、来年度の予算要求の手続きを進めているところです。

また、4点目の小中学校とのより一層の連携という観点から、第9期委員には小学校の徳田校長にも参加していただいているところであります。

最後に、事務局から提案ですが、第8期では「地域振興等のアイディア」として、委員の皆さんから自由にテーマを提案していただき、それを深掘してみようという試みを行ってまいりました。

例えば、川村先生やエゾロックさんのご協力で議論を深めた「移住・定住の取り組み」や、旧適沢コミセン（カフェ・ガル）の利活用などがそれぞれですが、第9期の地域協議会では、先ほどご紹介した「浜益の高齢者に優しいまちづくり」を継続的な検討テーマの一つとしてはどうかと思います。

具体的には、地区高齢化率が6割近くに達する浜益で、今後「高齢者に優しいまちづくり」に関して、地域協議会としてどういったことができるのか、地域おこし協力隊や新しく導入する集落支援員がどう関わっていくのか、また、地域づくり基金を活用した新たな事業の可能性はないかなどの視点で継続的に議論していったらどうかと考えています。

そのため、今日参加していただいた、宇野課長、保健師さん、生活アドバイザーの瀧さんにも継続的に情報提供やご意見をいただきながら進められたらと考えています。

以上、第8期の総括と第9期への引継ぎ事項の確認、それと第9期地域協議会のキックオフにあたり事務局からのご提案です。この点について、忌憚のないご意見・ご協議いただければ幸いです。

よろしく願いいたします。

【渡邊会長】

ただいま事務局よりご説明がありました。特に「高齢者に優しいまちづくり」を第9期協議会の継続検討のテーマにしてはどうかという提案がございましたが委員の皆様確認等ありますでしょうか。

【徳地委員】

高齢者を支えあうという事をテーマにするのか、それとも、高齢者をどうするかという事を今後進めていくのか、ということでしょうか？

【事務局】

高齢者をどうするというより、高齢者に優しい地域社会にどう関われるか、ということを皆さんで議論していきたいと思います。そこで実行に移せるものであれば実施したいと考えています。

【徳地委員】

ちょっとズレるかもしれないけど、高齢でもう辞めそうなお店があるじゃないですか？

無くなってしまうと困るお店もあるので、そういったお店を残していきたいといったことも議論の中に入れられますか

【事務局】

この後、集落の教科書をエゾロックさんから報告をいただきますが、今朝の北海道新聞の記事の中で味付けジンギスカンなども話題となっていました。そういった浜益ならではのソウルフードなどを広め伝えられたらいいなあと思っています。

【徳地委員】

ぜひ残しましょう。

【渡邊会長】

第8期資料の2ページに地域づくりを進めるためにという事で、今後地域協議会として農業や漁業、さらに幅広い視点を持って地域づくりを検討していく必要があるのではないかと委員からの意見も出ています。

また、高齢化や人口減少が進んでいる中、魅力的な地域づくりを進めるためには、支所、地域協議会をはじめ、各種団体、小中学校や保育園も含めた連携が必要不可欠ではないかという意見も出ております。

今まで地域振興ということで色々やってきたこともあるとは思いますが、その他にも「高齢者に優しいまちづくり」を進める意味でも、今回の我々9期のテーマとしてあげてはどうかと私自身も考えております。

【柿岡委員】

やってみたいことでもよろしいですか？

高齢者が多いことありますし、公共交通の少なさというのもあると思うので、カフェ・クローバーの報告でもありましたが、送迎バスを出してもらって来てくれる人がいる、逆にとらえると足が無いから動きたくても動けないという人がいると思います。

前協議会の委員の方からは是非これは伝えてほしいと言われていたのですが、区をまたいで移動できるのが沿岸バスとデマンドバスだけじゃないですか？沿岸バスは1日1往復、そして不定期で運休になることもあります。

デマンド交通にしても前日までに予約しないと中々動きがとれない、都合がいい時は当日でも来てくれることもあるけれど、それも運任せなので自由度が少ないから何か代わりになる交通手段を考えて、沿岸バス等も存続させながらそういったことを検討してほしいと言われました。

交通機関を存続させていくシステムの効率化などということ、ちょっと話がズレてしまうのですが、デジタル化が進んできて、比較的若い世代の人は端末操作ができるじゃないですか？高齢者の方も操作できれば自由度は増えると思いますし、スマホやデジタル機器に対する拒否感があったりしてガラケーで十分だと言っている人もいると思いますが、それをもっととっかかりやすく便利なものだと講習会のようなものがあれば、後々、車の配車サービスだったり、買い物代行のシステム構築をすると高齢者サービスにもつながるのではないかなと思います。

【宇野課長】

貴重なご意見ありがとうございます。

まさに地域包括支援センターでも話題になってる項目で、センターにおいても色々な相談を受けて対応するのですが、センターが持っている手法だけでは対応できない、交通の問題、情報化、デジタル化への対応の問題、去年は非常に寒さが厳しくて特に古い家にお住いの方は水道管が凍結して、そういった対応もセンターでしていたという事もあったのですが、自分たちでは対応できない高齢者の生活の要素があるという事が話題となりまして、これについてはどう解消していくかというなかで、狭い部署で何とかしようということから、課題を地域化をすることで色々なアイデアとかご支援をいただけるのではないかと考えています。

支所でいうと地域振興課と連携する、あるいは、市民福祉課と連携することで、本来福祉を目的としてはいないが、ひょっとしたら福祉でも使えるのではないかと思います。

今後、地域協議会の皆様においても、こうしたご意見をいただきながら、高齢者の住みよいまちづくりというものに達していければと考えております。

【渡邊会長】

「高齢者に優しいまちづくり」ということをテーマの一つとして、地域協議会の中で様々な区民からの要望や意見を委員の皆さんに集約していただいて、第8期の引継ぎ事項の中でもありました。

多くの地域の声を拾いあげていく組織、として、引き続き積極的な活動を継続したいと思っております。

地域包括支援センターやカフェ・クローバーから継続的に情報提供していただきながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

5 その他

【渡邊会長】

この場をお借りして、皆さんから話題提供等ありませんか？

【徳地委員】

特定地域づくり事業協同組合という制度がありまして、地元の漁師、農家、飲食店などの代表者と私を入れて組合の設立に向けて動き出します。

昨日も本庁の企画課と打ち合わせを行い、設立に向けた事務手続きを始めますのでご協力をお願いします。

【事務局】

補足しますと、6人のメンバーで組合を設立して人材派遣を行う事業を立ち上げるということ、もう少し進みましたら詳しくご紹介していきたいと思っております。

【渡邊会長】

次に浜益版「集落の教科書」の製作についてNPO法人エゾロックから報告していただきたいと思っております。

【井上協力隊】

地域おこし協力隊としてエゾロックの活動も支援している井上です。

本日は以前、おためし協力隊という枠のなかで少しだけ紹介させていただいた、浜益版「集落の教科書」の取り組みについて、プロジェクトの担当の大久保亜姫さんから説明していただきます。

【エゾロック】

みなさんこんばんは大久保亜姫です。どうぞよろしくお願いいたします。

普段は北海道大学農学部で学生をやっています。本年度はこの活動のボランティアリーダーとして活動しております。

～ 取組状況をスクリーンにて説明 ～

・ NPO法人 ezorockとは

- ・ 浜益ベースチームの活動状況
- ・ 集落の教科書とは
- ・ 浜益版「集落の教科書」と従来との違い
- ・ これまでの取材活動の様子
- ・ ロードマップ
- ・ 今後の展望

集落の教科書は更新前提で作成しますので、来年以降も同じように情報収集など進めていけたらいいなあと思っています。

私からは以上です。ありがとうございました。

【水崎委員】

活動頑張ってください。

ご説明の中で「浜益日記を支所や色々なところに配っている」とおっしゃりましたが、どういうところに配布しているのですか？

【エゾロック】

支所とエゾロックのWEBコンテンツでも紹介しています。ほかにも配布できる場所がありましたら紹介していただけたらと思います。

【水崎委員】

綺麗なものだし、みんなの目に触れたら良いと思います。うちの生徒のことも載っていたり、企業のことも載っていたりするので大変興味があります。

こういう手書きのものも味があって良いですし、学校の教室にも貼りたいなと思いました。

先ほどの協同組合の話や包括支援センターの話、この話しも人を増やしたい話だなと思って聞いていました。学校も複式が悪いとはいいませんが、できたら活気があるために人口が増えて生徒が増えてという願いは一緒なんだなと感じました。なので、こんないい活動しているのを地域の方にもわかってもらえればいいかなと思った次第です。

【渡邊会長】

ほかにございませんか？

令和3年度中の完成ということで、これからの移住・定住、関係人口の拡大に期待しています。

【事務局】

既に第9期となって2回目の会議を終了するところですが、今一度、会議の開催方法と会議録の作成についてご確認します。

はじめに、会議の開催方法についてです。具体的には開催頻度、開催時間等についてですが、会議は概ね1月に1回程度、平日の夜18:00ないし18:30から1時間から1時間半程度で開催したいと考えています。なお、コロナ禍の状況によっては書面開催等の手法も取り入れながら実施します。

次に、会議録の作成方法についてですが、市の市民参加条例に基づき会議録の作成が義務付けられています。会議録の作成方法は、会議中の発言すべてを記録する「全文筆記」と、発言の趣旨をまとめた「要点筆記」とがありますが、会議の内容を分かり易くまとめ、後で見返したときにポイントが把握し易いよう「要点筆記」とさせていただきたいと考えています。

また、会議録の決定に当たっては、出席者の全体もしくは代表者の確認が必要となりますが、従来通り、渡邊会長の確認後にご署名いただき決定する形とさせていただきたいと思います。

【渡邊会長】

ただいま事務局から、会議の開催方法と会議録の作成について確認がありましたが、何かご意見ありませんでしょうか？

無いようですので、会議の開催方法等については、事務局提案のとおりといたします。

6 次回の開催日程について

【事務局】

次回ですが、1月上旬を予定したいと考えております。

詳しい日程は後日改めてお知らせさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

7 閉 会

令和3年12月8日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 渡 邊 隆 之